



アイルランドは4つの地域に分けることができる。その4つの地域とは、東のレンスター、南のマンスター、西のコナート、北のアルスターである。現在、北のアルスターの一部がイギリス領となっており、ベルファストはイギリス領北アイルランドの首都となっている。南のマンスターは夏に観光客が多く訪れる地域となっており、キラニー、ディングルといったカラフルな街並みの町が数多く存在する。西のコナートには緑豊かなコネマラ地方、アラン諸島やバレン高原があり、厳しくも美しい自然の景観を見ることができる。アイルランドの首都ダブリンがあるのは東のレンスターである。レンスターにはダブリン以外にも数多くの魅力的な場所があり、歴史的な遺跡が点在している。



ニューグレンジ全景

レンスターの魅力的な場所としてまず最初に述べておかなければならないのは、ユネスコの世界遺産にもなっているニューグレンジとタラの丘であろう。ニューグレンジは巨大な石の遺跡で、紀元前2,500年頃の古墳とされている。入り口には渦巻き模様が刻まれた大きな石があるが、この渦巻き模様にはおそらく宗教的な意味が含まれていたのではないかと推定されている。どのような民族がこの遺跡を造ったかは不明であるが、興味深いことに冬至の日には太陽の光がまっすぐ墓室に届くようになっている。こうしたことから、この遺跡を造ったのは太陽を崇拜していた民族であったであろうと考えられている。

ニューグレンジの近くにあるタラの丘はケルト人の遺跡である。かつてアイルランドにはケルト人によって創設された数多くの王国があったのだが、このようなケルト人の王国の上に君臨していたのが、タラの王であったとされる。つまりタラ

にいる国王を頂点とする緩やかな国家連合体が形成されていたと考えられる。そのような意味において、タラの王はまさしく「王の中の王」であった。現在、タラの丘にはビジターセンターがあり、ここではタラが繁栄をしていた時代のことを学ぶことができる。またタラの丘には「ファルの石」という大きな石がある。この石に正統なケルトの王の継承者が触れると叫び声をあげると言われている。伝承によると、かつてこの石は正統な王の継承者が触ったときに極めて大きな叫び声をあげたことがあったらしい。この石は誰でもすぐ触れる場所にあるので、簡単に触ることができる。

中世の時代のアイルランドはキリスト教の中心地の1つとして繁栄をしたのだが、ダブリン近郊にあるグレンダーロホという初期キリスト教の教会の遺跡も大変興味深いところだ。グレンダーロホはキリスト教の聖地として発展したところで、9世紀にはヨーロッパ各地から修道士や学者がここに来たとされている。その後アイルランドはバイキングの襲来を受け、さらにイギリス人の支配を受けたため、グレンダーロホは急速に衰退していった。このグレンダーロホでは33メートルの高さのラウンドタワー（バイキングの襲来があったときにこの中に人々は避難した）や数多くのハイクロス（ケルト十字架）だけでなく、石積みの初期教会の代表的な建築の遺跡を見ることができる。

レンスターにはトリム、ウィックロウ、ドロヘダといった歴史的に魅力のある町がいくつかあるのだが、その中でも中世の雰囲気をも最も残している町がキルケニーであろう。キルケニーはダブリンからバスでも鉄道でも行くことができる場所で、ぶらぶらと散歩するだけでも興味深い町である。中心にあるのはキルケニー城で、ここは領主バトラー家の居城として使われていたところだ。この城は均整のとれた美しい建築としても知られている。城の前には広大な緑の芝生が広がっている。この他にも聖カニス大聖堂やロスハウスなど訪れるべきところはたくさんあるし、キテラーズインという中世の雰囲気を残したパブもある。このような町にはできることなら1泊して、アイルランドの伝統音楽でも聴きながら町の雰囲気にひたりたいものである。

さわだ としあき（教授・西洋史）